

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人 やながせ福社会

居宅介護支援事業所

大津みやび野ホーム居宅介護支援事業所

令和4年度 事業計画

目 標	社会情勢が様々に変化する中であっても利用者一人ひとりに丁寧に向き合い、信頼関係を構築し、専門性を高めていくことで、個々の利用者の真のニーズに副ったケアマネジメントを図る。
理 由	利用者一人ひとりが望む生活が継続できるように個別性を大切にしたケアマネジメントに取り組みたいため。 認知症高齢者が増加している中、要介護状態や認知症となっても住み慣れた地域でできる限り継続した生活が送れるよう、多様な支援を継続的、包括的に提供していきたいため。
具体的対応策	<ol style="list-style-type: none">1. 地域情報や社会資源を把握するとともに各種制度に関する知識を高めるため、外部研修に積極的に参加する。2. 認知症に関する理解を深めるため、認知症利用者の事例検討会を実施し、情報共有と共通認識を図り、ケアマネジメントに活かす。3. 感染症や自然災害時に業務が継続できるように業務継続計画（BCP）に取り組む。

令和4年度 事業報告

<p>事業報告</p>	<p>オンラインを活用した研修や感染予防に取り組みながらの対面研修にて、コロナ禍であっても研修に参加し、医療知識や各種制度、ケアマネジメントに関する知識を高めることができた。</p> <p>事業所内研修にて、認知症利用者の事例検討を繰り返し行い、支援の方向性を整理し、共通認識を図ったことで、担当以外の利用者の対応など幅広くケアマネジメントができる体制をつくることもできた。</p> <p>居宅介護支援事業所としての業務継続計画に関するマニュアルが完成したため、今後、資料を活用しながら繰り返しの研修を実施し、有事に備えていきたい。</p>
<p>事業運営総括</p>	<p>令和4年度の月間稼働率について、93%から99%で保っている。各居宅介護事業所や診療所、利用者から紹介もあることから信頼関係の構築ができています。引き続き丁寧な支援を心がけながらも更なる業務の効率化を目指していきたい。</p> <p>利用者数の増加もあり、丁寧な情報共有、事例検討に取り組み個々の担当者が受け持つ意識ではなく、事業所として利用者を支える意識、体制づくりに力を注いでいきたい。</p>

要介護度の状況 《平均要介護度 1.79》

令和5年3月31日 現在

	人数	割合
要支援1	15	8%
要支援2	10	5%
予防計	25	13%
要介護1	69	38%
要介護2	46	25%
要介護3	22	12%
要介護4	11	6%
要介護5	9	5%
介護計	157	86%
合計	182	100%

(四捨五入による%の誤差あり)

新規契約者数

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約者数	7	4	2	6	3	5	9	8	2	2	1	8	57

利用者数

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援1・2	37	38	40	38	36	37	35	32	30	34	19	25	401
プラン数	158	158	159	156	153	153	160	164	165	165	160	157	1,908
合計	195	196	199	194	189	190	195	196	195	199	179	182	2,309

要介護認定調査数

令和4年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
居宅	1	1	2	2	3	0	1	5	0	1	1	3	20
特養	0	1	0	4	1	0	0	0	0	6	0	4	16
合計	1	2	2	6	4	0	1	5	0	7	1	7	36

職員間の内部研修の実施状況 (令和4年度)

研修名	研修内容	参加職種	参加人数	期間	講師(職・氏名)
基本理念・接遇研修	法人理念・服務心得・ハラスメント、高齢者虐待・人権意識、個人情報保護について	介護支援専門員	39名	4月1日	施設長
身体拘束研修	身体拘束とは、虐待防止への取り組みについて ※コロナ感染予防のため資料配布	介護支援専門員	60名	4月20日	介護支援専門員
OJT研修	人間関係、チームワークについて	介護支援専門員	60名	5月25日	OJT委員会
感染予防研修	食中毒の原因と対策について	介護支援専門員	49名	6月22日～6月28日 (4回)	管理栄養士
排泄ケア研修	排泄用品の選び方について	介護支援専門員	52名	7月26日	ユニットリナーダー
褥瘡予防研修・服薬研修	褥瘡予防・服薬について	介護支援専門員	45名	8月25日	感染委員会 褥瘡防止委員会
リスクマネジメント研修	事故報告書、事故の適切な対応と予防法について	介護支援専門員	34名	10月24日～10月27日 (4回)	リスク管理委員会
終末期ケア研修	看取りとは、本人の意思決定、多職種連携、緩和ケアについて	介護支援専門員	26名	12月20日～12月28日 (4回)	看護職員
リスク管理・安全対策研修	事故報告書件数集計、事故報告書について 演習：施設の消火器の把握と初期消火訓練	介護支援専門員	31名	3月23日～3月30日 (4回)	施設長、生活相談員

参加人数は併設事業所も含む。

職員の外研修の受講状況 (令和4年度)

研修名	研修内容	参加職種	参加人員	日付	期間	場所	研修結果の報告方法
兵庫県社会福祉法人経営者協議会 第42回記念講演会	こどももまんなか社会を目指し今求められることについて	介護支援専門員	1名	5月12日	1日間	オンライン研修	口頭・復命
姫路在宅医療・介護支援センター 疾患勉強会	「高血圧症」について	介護支援専門員	5名	6月2日	1日間	オンライン研修	口頭・復命
ケアマネジメント向上会議	事例検討	介護支援専門員	4名	6月29日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
第1回網干ブロック包括的、継続的ケア マネジメント研修	ターミナル期を含めた福祉用具の活用、ケアマネ ジャーの価値、倫理について	介護支援専門員	2名	7月27日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
第1回広畑包括的、継続的ケアマネジメ ント研修	かかりつけ医とケアマネジャーの連携、連絡票、ケ アマネジャーの価値、倫理について	介護支援専門員	3名	7月28日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
ケアマネジメント向上会議	事例検討	介護支援専門員	4名	8月10日	1日間	オンライン研修	口頭・復命
2法人合同研修	精神疾患について	介護支援専門員	5名	9月1日	1日間	オンライン研修	口頭・復命
第2回広畑包括的、継続的ケアマネジメ ント研修	サービ担当者会議のあり方、ケアマネジャーの価 値、倫理について	介護支援専門員	2名	9月20日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
第2回網干ブロック包括的、継続的ケア マネジメント研修	障害者の介護保険移行支援について	介護支援専門員	2名	9月26日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
主任ケアマネ研修・交流会	介護現場におけるハラスメントについて	介護支援専門員	2名	9月28日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
姫路在宅医療・介護支援センター 疾患勉強会	「糖尿病」について	介護支援専門員	4名	10月4日	1日間	オンライン研修	口頭・復命

研 修 名	研 修 内 容	参 加 職 種	参 加 人 員	日 付	期 間	場 所	研 修 結 果 の 報 告 方 法
西播磨介護サービス事業所連絡協議会	ストレス解消法について	介護支援専門員	1名	10月29日	1日間	オンライン研修	口頭・復命
主任介護支援専門員更新研修	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向、実践の振り返りと指導及び支援の実践について	介護支援専門員	1名	11月2日	5日間	オンライン研修	口頭・復命
第3回広畑ブロック包括的、継続的ケアマネジメント研修	成年後見制度・日常生活自立支援の概要、ケアマネジャーの価値、倫理について	介護支援専門員	2名	11月18日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
福祉用具勉強会	自宅内外での動線の確保について	介護支援専門員	4名	11月24日	1日間	オンライン研修	口頭・復命
第3回網干ブロック包括的、継続的ケアマネジメント研修	アルコール依存症の方の支援について	介護支援専門員	1名	11月25日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
主任介護支援専門員更新研修	介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向、実践の振り返りと指導及び支援の実践について	介護支援専門員	1名	11月25日	4日間	オンライン研修	口頭・復命
第4回網干ブロック包括的、継続的ケアマネジメント研修	カスタマーハラスメントとメンタルヘルスについて	介護支援専門員	1名	2月13日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
2 法人合同研修	精神疾患について	介護支援専門員	5名	2月16日	2日間	レーベン居宅サービス事業所	口頭・復命
主任ケアマネ研修・交流会	地域課題抽出システムと地域支えあい会議について	介護支援専門員	2名	3月17日	1日間	姫路市網干市民センター	口頭・復命
姫路市監査指導課 ハラスメント防止研修	ハラスメントの実態、ハラスメント発生の要因、リスク要因、事業所としての対応（予防的取組・発生時の対応）、契約解除と正当な理由について	介護支援専門員	1名	3月30日	1日間	オンライン研修	口頭・復命

苦情対応

発生日	苦情内容	解決方法
令和4年 12月7日	<p>「応対について」</p> <p>介護支援専門員の支援について、家族よりサービス利用の説明が実際と異なり、予定を勝手に決めた、不在時の折り返しの連絡がなかったことを主訴に「担当介護支援専門員が嘘をつく」「言い訳ばかりする」「謝らない」「担当介護支援専門員は認知症ではないか」との申し出がある。</p>	<p>①管理者と担当介護支援専門員が連絡後、利用者宅を訪問し、家族の思いや対応に関する意向を確認する。</p> <p>②担当介護支援専門員や事業所の変更の意向を確認するが、変更はなく、継続となる。</p> <p>③担当介護支援専門員が説明した内容と家族が理解した内容に相違がある事が判明し、今後、解りやすい説明ができるよう工夫、努力をすること、メールなどを使用し、言葉を文字化することで思い違いや勘違いをなくす方法について説明し、共有したことで理解が得られた。</p>

事故対応

発生日	事故内容	事故対策
令和4年 4月18日	<p>「公用車の接触事故」</p> <p>担当者会議のため、利用者宅を訪問した時に、数台の車が利用者宅の空き地に縦列駐車する。空き地を出る時に死角となる前方のブロックに左前方をあたり、傷ついた。</p>	<p>①心に余裕を持った運転に努める。</p> <p>②駐車してある他事業所の車やブロックなど位置関係を把握する。</p> <p>③車幅間隔を身につけ、駐車場の幅が限られる場所では、周囲の状況を確認しつつ、慎重に操作する。</p> <p>④接触しそうな場合は、前進せず、後退操作を行う。</p>
令和5年 2月21日	<p>「連絡調整のミス」</p> <p>高齢者住宅に入居する利用者の認定調査の日時報告を受けていたが、デイサービス利用日であることを失念しており、当日、本人がデイサービスを利用し、不在となる。その後、高齢者住宅の職員から確認の電話が入り、気がついた。</p>	<p>①連絡を受けた時点でメモを録り、カレンダーや行事予定表に記載する。</p> <p>②利用票を確認し、居宅サービスと重なる場合は、以前に居宅サービス事業所に休みや時間を変更しての利用など変更を連絡する。</p>

※ 避難訓練については、併設の特別養護老人ホームと合同で行い、参加している。